

第 5 分科会

周南支部

「豊かな人間性」

充実したグループ協議

第五分科会には、運営各担当者を含め、周南支部二十八名中、十三名が参加した。半数以上は他会場の役員ということで、十一月の市校長会では分科会の様子を復伝し、共通認識をもった。グループ協議の様子は、これまでの大会と比べ、次の点で充実していたと感想があった。

一点目は、発表内容に関することである。実践が一部の学校や地域の実践に留まってしまうこともあったが、本市のように三年計画で、すべての学校の協同実践であったことに対して、参加者からは大いに評価された。

二点目は、グループ協議に関することである。これまでのグループ協議は、限られた時間の中、各校の情報交換で終わってしまうこともあったが、今回は、校長の果たすべき役割と指導性に重きが置かれ、研究協議の視点が逸れることなく、充実した話し合いとなっていた。

また、運営の立場からは、運営に関する資料が充実しており、安心して運営に携わることができた。各グループ

協議の様子を見て回ったが、各グループとも熱心に発表を聞き合う雰囲気を感じられ、参加者が前のめりになって話し合う姿が見受けられた。

本市校長会では、研究部から「発表が終わったら研究が終わるのではない。今後も学校や子どもの変容に目を向け、これまでの成果や課題をまとめていくことこそが大切である。」という提案が示され、今回の研究の収束に向け取り進むこととしている。

校長会の全国大会は初めてという校長や、何度も参加したということでも全員参加ができたことは貴重な経験につながった。この経験を、今後の学校運営や校長会の充実に生かしていきたい。

(湯野小学校 田中潤子)



全連小山口大会を通して

第 6 分科会

長門支部

「健やかな体」

健やかな体を育むカリキュラム

マネジメント

第六分科会には、百九十二名の全国の校長先生方の参加のもと、山口県健康づくりセンターで開催された。

視点①では、北海道から「体力向上をめざす学校教育の改善と校長の指導性」と題して発表があった。校長会が教育委員会と連携し、町内で優れた成果を挙げている小学校の実践について学ぶ機会を設け、その結果を各小中学校に還元することによって、町全体の体力向上につなげようと考えたものであった。校長一人ひとりがたくましく学校経営を行っていくためには、校長会組織の結束と市ぐるみで取り組んでいくことの必要性を痛感させられた。

視点②では、島根県から「協働と連携で進める生活習慣づくり」と題して発表があった。取組内容として、「生活リズム」「メディア接触」「食育」の三つの内容に絞って取組み、主に校内での取組を「協働」、校外での取組を「連携」と位置づけた。さらに、学校保健委員会を「協働」と「連携」を

つなぐものとしてとらえ、これらをもまく連動させることを柱に、各校の健康課題の改善に取り組んでいた。学校評価の結果から自校の課題として、家庭学習と家庭読書の時間の確保があるが、児童や保護者の生活リズムを整えることに対する意識を変える方策として、大変勉強になった。グループ協議でも、「連携」をキーワードに、各校長から各学校の状況や地域の特性を考慮した実践や思いが飛び交う充実した話し合いとなった。

この分科会を通して、子どもたちの体力・運動能力の向上や様々な健康課題の解決のためには、学校経営の責任者である私たち校長が校内外において指導力を発揮しなければならぬことを再認識することができた。

また、今後に向け、具体的な方策のヒントを得る貴重な機会となった。

(向陽小学校 大野良治)

